

「技術倫理」在り方問い直す

デジタル分野などで新技術の開発や実装が進展する一方、少子高齢化に伴う人材不足や技術の継承問題が浮き彫りになっている。時代の変化によって産業や学術の持続可能性が試練に直面する状況下、あらためて問われるのが「技術倫理」だ。一般社団法人第三者社会基盤技術評価支援機構・北海道（HITEST）は技術倫理の在り方を問い直している。

技術リテラシー問題が深刻に

HITESTは、土木分野の技術的問題を第三者の立場で評価・支援する非営利組織。中部地方に続

北大名誉教授 山本 強氏



岩田地崎建設 河村 巧氏



HITESTは、土木分野の技術的問題を第三者の立場で評価・支援する非営利組織。中部地方に続き全国2番目に発足し、この設立20周年を迎える。毎年の周年行事ではその時代の関心事を主題にしたセミナーを企画している。このほど開いた19周年セミナーではITと人工知能（AI）の開発が盛んな現代の技術倫理に関する識者が意見を交わした。話題の一つに挙げたのは、建設工事のオートメーション化などを国土交通省が提唱する「i-Construction 2.0」。IT研究者として議論に迎え入れた北大の山本強名誉教授・総

「AIとは何か説明を」認識のずれ是正



北大名誉教授 佐伯 昇氏

長特命参与は「AIにここまで期待してもいいのか」と投げかける。山本氏の意見に同調したHITESTの河村巧上級技術倫理指導員（岩田地崎建設）は「生産性向上のエンジンとして進んできた思想は変わっていないが、AIという表現は発信側と受け手で認識にずれがあるのではとみた。山本氏は「技術リテラシー（技術を適切に解釈

世代ごとの反応 違いに価値あり

代表理事を務める北大

・活用できる能力）の問題はかなり深刻」と指摘する。「AIで」と簡単に言ってもそこで言うAIとは何か、ほとんど分かられていない気がする」とし、「専門家は、ここで言うAIとは何なのか説明を」と説いた。河村氏は、建設とITは人材の素地が異なるとし「まず技術リテラシーの融合をうまくやらなければならぬ」と述べた。世代ごとの反応が違ふことが重要で、見方に価値がある」と提言した。佐伯氏は、技術は時に非人道的に用いられる実情にも触れ「そういうことを常々考えていかなければならない」と指摘した。山本氏は「技術は中立だと思っている」と主張し「技術が良い悪いではなく社会がどのように技術を使うとしたか」と強調。日本で戦争経験者が減る中「当時の技術者がどのように考えて行動したか記録に残すことが大事」と進言した。